

気球山中落下

大型無線装置が影響 通常機器で実験再開へ

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は3日、8月27日に大樹航空宇宙実験場で行った大気球放球実験で、気球が広尾町内の山中に落下した原因について、気球に取り付けた大型無線装置が気球の破断を阻害したためと発表した。18日ま

で予定している残り3つの実験は、当初から通常の無線装置を装着することにしており、5日以降に再開する。山中に落下したのは今年度第2次実験の2基目。実験では、気球につり下げた観測機器で高エネルギー電子などを観測。気球はその後、観測機器を切り離し、十勝沖近海で回収される予定だった。JAXAによると、今回の実験では観測機器の切り離しには成功したが、気球を追尾する大型無線装置が影響して正常に気球のフィルムを破断できず、浮力が残った。そのため、気球は降下速度が遅くなり、回収予定の十勝沖近海ではなく、広尾町内の山中に落下した。実験は関係機関と調整した上で再開する。（佐藤圭史）